

iWATA GAKUEN

こどもかいぎ

学校法人岩田学園
いづみ幼稚園 みたま幼稚園
2023年度保育研究

ウェルビーイングが循環する幼稚園



1. 答えのない問いに向き合う力

正解のない時代において「考える」とはどういうことでしょうか？

地球環境の変化や技術の進歩、グローバル化により、世界はますます複雑化し、今まで「正解」だと言われていたことが必ずしも「正解」ではなくなっています。このような時代において「考える」とは、単に問題を解決したり答えを見つけることではありません。

自分とつながる

自分の信じることや大切にすることを見つけ、なぜそう考えるのか、どうしてそれが大切なのか自分を理解し、それをもとに意思決定することが必要です。

他者とつながる

他の人と話し合ったり、異なる考え方を理解したりし、それを自分の考えに取り入れることで、よりよい見解が得られます。

未来とつながる

正解のない時代では、従来の方法にとらわれず、新しいやり方やアイデアを生み出す必要があります。

つまり「考える」とは、自分自身を理解し、他の人と対話して新しいアイデアを生み出すことです。人との距離が制限され、先の見えない不確実性の象徴であるコロナ禍のさなか、本園ではこれからの時代を生き抜く力として対話の重要性を実感し、映画『こどもかいぎ』を参考にして、2022年より保育に「こどもかいぎ」取り入れました。

「こどもかいぎ」とは、「子どもたちが輪になって、様々なトピックを自由に話し合う」こと。この取り組みを通じて、子どもたちは自分の考えを言葉にし、他の子どもたちの意見に耳を傾ける経験を積み重ねることで、聞く力や話す力だけでなく、理解力、思考力、想像力、つながる力、発想力、創造力など、様々な力が培われています。



「『こどもかいぎ』のトリセツ：すぐできる！対話力を育む保育」
豪田トモ著、中央法規出版、2023年

本園の取り組みも紹介されています。

「仲間と一緒に話し合って問題や課題を乗り越えた経験が、『話し合えば協力し合える』という信念や、大人になってから『自分たちの力で社会を変えていける』という『未来を信じる力』『希望』になる。」（『こどもかいぎのトリセツ』本文より）



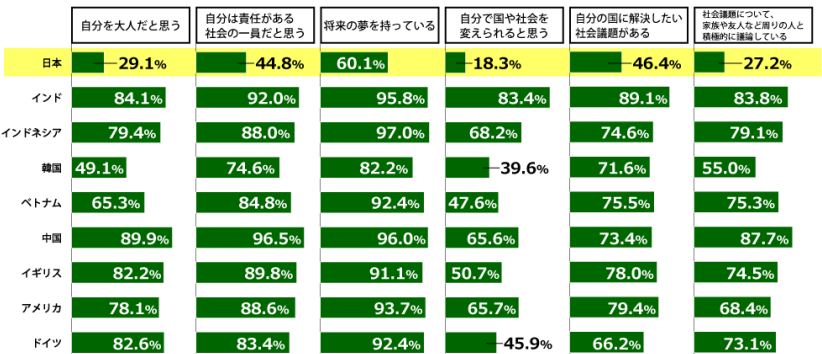
2. 子どもの思いを聴く

私たち大人は子どもの声を聴いているでしょうか？

幼稚園生活において教師は子どもたちと多くの会話をしますが、それぞれの子どもの心の奥にある思いを知ることは簡単ではありません。

子どものウェルビーイングと「こどもかいぎ」

日本の子どもの精神的幸福度は先進国38カ国中37位。いじめ、虐待、貧困、うつ、自殺など、子どもたちを取り巻く状況は深刻です。いじめの問題が複雑化する理由の一つに、子どもたちが感情を言語化できないことや、自分ひとりで問題を解決しようとする事が挙げられます。幼児期からの「こどもかいぎ」の経験によって、自分の思いを言葉にしたり、話を聞いてもらえると感ずることで、孤独感が軽減され、SOSを発しやすくなります。



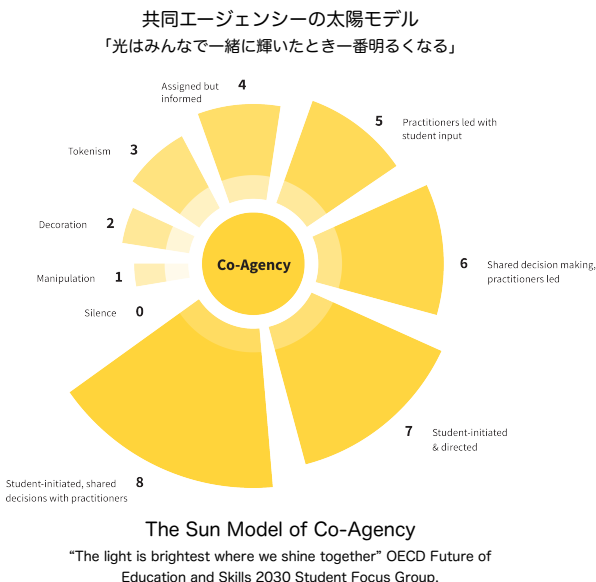
「18歳意識調査：国や社会に対する意識（9カ国）」2019 日本財団

日本の若者の数字の低さが際立っている。
最新の調査（2024、6カ国）でも全ての項目で日本は最下位だった。日本では「自分を大人だと思う」「自分の行動で国や社会を変えられると思う」が特に低いのが特徴的。

大人たちの「聴く」姿勢によって、子どもたちの未来が変わります。大人は子どもたちが持つ様々な視点やアイデアを真剣に受け止め、彼らの声を尊重することが重要です。正解のない時代の教師の役割は、大人の価値観を子どもに押しつけるのではなく、子どもたちが自らの思いや考えを表現し、やってみようとする事をサポートすることだと考えます。

エージェンシー

「OECDラーニングコンパス（学びの羅針2030）」では、生徒エージェンシー（Student Agency）がキーワードになっています。エージェンシーとは「自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意志を持つこと」で「主体性」とも訳されます。教師や保護者、仲間も含めた「共同エージェンシー」も不可欠です。



0	沈黙	子どもが貢献できると子どもも大人も信じておらず、大人がすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うのに対して子どもは沈黙を保つ。
1	操り	主張を正当化するために大人が子どもを利用し、まるで子どもが主導しているかのように見せる。
2	お飾り	主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人が子どもを利用する。
3	形式主義・形だけの平等	大人は子どもに選択肢を与えているように見せるが、その内容あるいは参加の仕方に子どもが選択する余地は少ない、あるいは皆無である。
4	生徒に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ	子どもには特定の役割が与えられ、子どもが参加する方法や理由は伝えられているが、子どもはプロジェクトの主導や意思決定、プロジェクトにおける自分たちの役割に関する判断には関わらない。
5	生徒からの意見を基に大人が導く	子どもはプロジェクトの設計に関して意見を求められ、その結果について報告を受けるが、大人がプロジェクトを主導し、意思決定を行う。
6	意思決定を大人・生徒で共有しながら大人が導く	大人が進め、主導するプロジェクトの意思決定の過程に、子どもも参画する。
7	生徒が主導し、方向性を定める	子どもが大人の支援を受けてプロジェクトを主導し、方向性を定める。大人は意見を求められたり、子どもが意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は子どもが行う。
8	生徒が主導し、大人とともに意思決定を共有する	子どもがプロジェクトを主導し、意思決定は子どもと大人の協働で行われる。プロジェクトの進行や運営は子どもと大人の対等な立場で共有される。

3. 「こどもかいぎ」と子どもの育ち

子どもたちは「対話」という「心のスキンシップ」を重ねることによって、安心して話すことを覚え、自分の気持ちを言葉にするという術を身につける。さらに、他人との違いをポジティブに受け入れ、人とのコミュニケーションを楽しむようになる。

年少組

T 雨と晴れ、どっちが好き？

「晴れが好き！」
「だってお外で遊べるから」
「雨も晴れも好き！」
「雷ってどこにいるのかな？」
「雲の上にいるんだよ！」
「雷様がどんどんってするから雨が降るんだよ！」
「雷様がえーんって泣くから雨が降るんじゃない？」
「雷様じゃなくて、雲が雨を降らすんだよ！」
「雷、こわいな」
「晴れてるときは雷様ってどこにいるんだろう？」
「みんなのこと見てる？」
「隠れてるんじゃない？」



年少組

T もし魔法が使えたらどんなことしたい？

「エルサになりたい」
「恐竜になりたい」
「アイス屋さんになりたい」
「アイス屋さんになって魔法を使ってたくさんの人に売
るの」
「魔法で敵をやっつける」
「魔法で先生を増やしたい」

年中組

T 好きなもの・苦手なものを教えて

「氷のお城が好きだからエルサが好き」
「パパとママと妹とやるおうちごっこが好き」
「ちっちゃくて可愛いからマイメロが好きなんだよ」
「おうちでテレビをみるのが好き」
「ハチが嫌いな。だって追いかけてくるから」
「サッカーのヘディングが痛いから苦手」
「公園のトランポリンがやだ。前に行ったときに落ち
ちゃったから」



一緒にお話をすることで、「自分は1人じゃないんだ」と思えたり、仲間意識が芽生えるきっかけとなる。「何でも話して良い」「何を話しても受け入れてもらえる」という安心感は、自己肯定感につながるだけでなく、**心理的に安全な「居場所」**になっていく。

年長組

T お母さんのおなかの中にいる時のことを覚えている？

「声は聞こえてたよ」「真っ暗の中にいた」「でも声は
なんか聞こえてた」「なんかね、ぼわ〜んって言ってる
みたい」

T おかあさんのお腹にいる時は、声が聞こえてたの？

「ちょっと思い出してみるね」
「なんかね、早く会いたって言ってた」
「大丈夫って言ってた」
「なんかね、いろんな笑い声が聞こえた気がする」
「え〜覚えてない」
「あのね、真っ暗で何も見えないの。だけど声だけは聞
こえた気がする」

「そうそう！真っ暗なんだよね」
「なんか閉じ込められているけど、動ける感じ」「みんな
の声が聞こえてるの。だから覚えてる」

T どんなことを覚えているの？

「ママが言ってたんだけど、お腹で繋がっていてご飯を
もらっていたんだよ。おへそとママが繋がってたんだっ
て。糸電話みたいに聞こえてたのかな？」

「あ！なんかそんな感じ」
「なんかね、早く会いたって言ってた」
「元気？とかよしよし！とか好きだよって言ってくれた
の覚えてる」

「元気で生まれてきてねって言ってたよ」
「でもね、なんかゆっくりになる時があるの」

「そうそう！」
「気持ちがよくて一緒に寝るんだよ」
「いっぱい動きたい気持ちだけど動けないの」
「ずっと暗くて何も見えなかったけど、なんか声は聞こ
えてた。何かは覚えてないけど」
「なんかね、ぼわんってする感じ」
「わかる〜」

T お腹の中ってどんな感じなの？

「あったかい感じ」「ずっと寝てた」
「なんかゆっくりできる感じ」
「たまに体操みたいなしてた」
「早く会いたけど、まだダメって言われた」
「えー!? 誰に？」
「わからないけど何か言われたの。神様みたいな？」
「きつくて死にそうになった」
「音は聞こえるけど、見えない世界」
「道の時なんか一緒の声がした」

T 生まれてくる時のことを覚えてる？

「なんかね、押される感じ」
「声が聞こえるけどわからない」
「(双子の兄が)早くおいでって言ってた」
「自分で迷路みたいなのところに入ったみたい」
「声がたくさんした」

「こどもかいぎ」の経験が日常的な対話の習慣となり、様々な場面で子どもたちが気づきを共有したりする機会が増えた。子どもたちは**好奇心を広げ、考える楽しさや試行錯誤する面白さを感じている**ようだ。

年中組「ドロケイ」

どろぼうチームが全員捕まってしまう、すぐにゲームが終了。そこで、子どもたちは「どろぼうがすぐに捕まらないようにする作戦」を考え始めた。

「早く走る」「あきらめないで走る」「捕まっちゃったから助けて！って言って気づいてもらう」

「たくさん走れるようにごはんをいっぱい食べてくるね」「手を上げながら助けて！って言うのはどう？」

→その後のドロケイでは、捕まったお友だちを積極的に助けたり、助けを求めたり、何回逃げられても諦めずに捕まえに行ったり、遊びが盛り上がった。みんなで考えたり、自分の思いを伝え合ったりする経験を通して、お友だちとの仲が深まったり、工夫して遊ぶ楽しさに気付いたりすることにつながった。

年長組「紙飛行機」

いろいろな厚さや大きさの紙を用意して紙飛行機づくり。どんな紙飛行機でもOK。はじめは作り方を見て折り始める子がたくさんいたが、次第にオリジナル作品づくりに。作っては飛ばしてみ、紙の種類、大きさ、折り方などを工夫していた。

「ここを折るのがポイント」

「2つ重ねたらどんなふうに飛ぶかなあ」

「羽のところをこうおったら、回りながら飛んだ!!」

「ストローで吹いて、風で飛ばしてみようと思うんだ!!」

「鳥みたいに飛んでほしいから鳥の絵を描いたの」

「顔描いて可愛くしたからたくさん飛ぶかな」

「勝負しよう」

なんでだろう？どうしたらいいんだ!の対話（気づき、試行錯誤）がたくさんあった。

年長組「もったいないをなくそう」

T もったいないをなくすためにできることはなんだろう？

「苦手なものもひと口食べてみる。食べてみたら好きってなるかも。」

「食べられる人にあげる。」

「食べられるものは全部食べる。」

「飼えない虫は自然に帰す。虫は自然の空気の方が好きだから。」

「餌や土を用意して大切に育てる。」

「優しく持つ（つかむ）。」

「使えるものはまた使う。集めて違うものを作る。」

「失敗しちゃった折り紙は紙飛行機にして遊ぶ。」

→みんなで考えを共有したことで、意識するようになり、「これ、まだ使えそうかも？」

「この野菜、一回チャレンジしてみたよ（食べてみたよ）」「（蝶を）ずっとつかんでいたら弱っちゃうから、一回虫網の中に戻してみる」と行動する姿が見られた。



年長組「風船バドミントン」

教師が作った手作りラケットを見て

「どうやって作ったの?」「作り方教えて」

T「何を使って作ったのでしょうか?どうやって作ったでしょう?」

「段ボールが必要!」「持つところは割り箸だね」

「最後にテープで止めればいいんじゃない?」

→子どもたち自身が作ったもので遊び出したが、割り箸がすぐに抜けてしまった。子どもたちは「なんで?」と試行錯誤を重ねたのち、丈夫なラケットができた。

→遊ぶ中で「同じ人が何度も風船を拾っていたら楽しくない!」と感じた子どもたちが丸くなって、「みんなで楽しく遊ぶためにはどうしたらいいか」を考えた。

→「一人一回で、続けて同じ人が風船を触らない!」という全員納得のルールができて遊んだところ、最高記録64回達成!



お友だちと考えが違うことは悪くない!

同じ考えを持つお友だちの意見を聞くことで共感が生まれるだけでなく、「自分とは違う考えがあるんだ」と気づくことで、**多様性を尊重**する意識が育まれている。

特に年長児は、お互いのアイデアを出し合うことで、一人では思いつかなかった新しいアイデアが生まれることに気づき、みんなで考えるとより良い解決策を見つけられることを実感している。

単に考えを合体したり多数決をとるだけでなく、擦り合わせたり新たな案を出したりなど、攻撃的でない方法で現状を改善する力が養われている。子どもたち自身が遠足の計画や卒園式の演出を企画したり、園内で起きたちょっと困ったことの解決策を考えるなど、大人の枠を超えた素晴らしいアイデアも多く見られる。

いつもお友だちと同じ考えがいいわけではなく、「自分の考えを持っていい。お友だちと意見が違ってもいい。意見が違ってもお友だちでいられる。」と子どもたちが実感することにより、「自分で考え行動する力」が身についていくのではないかと。

番外編：「こどもかいぎ」って？まずはやってみよう！楽しんでみよう！

先生たちが架空の「かいぎ」をしました。

「宇宙からの転入園児!？」

F=ファシリテーター A~H=参加教師

F 今日はみなさんにお知らせがありまして、実は来週、宇宙人の子が入園することになりました。その子が安心して幼稚園生活を送れるように、私たちがどんな風に関わっていかれるか考えてと思います。

A 日本語は通じますか？

F この前一緒に遊んでいたB先生どうでしたか？

B カタコトだったけど通じました。

F どんな見た目だったか描いていただいてもいいですか？



全 かわいいですね。

A 給食は食べますか？

F 以前に宇宙から来た子を担任したことの
あるC先生、どうでしたか？

C 他の子と同じように食べていました。

A ライオンTシャツ着られるかな？

B 体がヌルヌルしてたかも。

D 拭くものを持っていった方がいいのかな？

F その子は何をして遊んでいましたか？

B 年中さんや年長さんと一緒に遊具で遊んでいました。

E クライミングウォールとか上手そう。他のお友だちに登り方を教えてくれそうですね。

F 以前にいた宇宙人の子についても少し聞かせてください。

D その子は日本語が話せなくて、宇宙語だったんですよ。ピピパパみたいな感じだった。

F どうやってコミュニケーションを取っていたんですか？

D 身振り手振りでやってみて、通じると表情に出て意思疎通ができました。

F 気性は穏やかそうですね。

F G先生のお友だちにも宇宙人がいるんですよ。その方はどうですか？

G 大人の宇宙人はそれまでの経験があって、コミュニケーションが取れます。一緒におでかけしたりして楽しいです。

A その方は、ずっと地球に住んでいるんですか？

G 私は小学校の頃に会いました。地球には結構慣れていますね。

F 幼馴染なのですね。この子にも幼稚園でたくさん遊んでほしいですね。どんなことをして遊べそうですか？

E ボールがくっつく遊びが楽しめそう。手足が多いので登ったり、つかんだりするのが得意そう。

F 何か心配なことはありますか？

A はさみが持てるかな？

B トイレはどうか？

D 星が出てくるかも！ 全 素敵！

F 他に何かありますか？

H 走って足が絡まないかな？

A 速いのかな？

E シューって走れるかも。

D ちょっと地面から浮いているかもしれない。

H 同じこと思いました！

F もし、他の子が怖いって言ったら何て声を掛けますか？

E 同じお面を付けたりして遊んだらどうか？

G 知らないと怖いから、故郷、どんな所に住んでいるのか、どんなものを食べるかを調べて興味を持つといいかも。

…つづく

テーマや人数構成を変えての「かいぎ」も試してみました。



感想・考察

・みんなが受け入れてくれる雰囲気がとても良かった。話しやすかった。安心して話すことができた。

・こどもかいぎは、難しいと勝手に思い込んでいたが、実際にやってみると面白かった。ファシリテーションがうまくできるか不安だったができそうな気がした。

・年少には難しいのではと思っていたが、やってみたくなくなった。

・思考が無限に広がっていくことが面白く、子どもが夢中になって話す気持ちがわかった気がする。

・ファシリテーターの先生が話を振ってくれたことで話しやすくなった。

・まだ「こどもかいぎ」をしたことがなかったが、簡単なテーマから始めてみようと思った。

・何を言っても受け入れてもらえる雰囲気での安心感があった。

・ファシリテーター（教師）が面白い・興味を持って聞くことが大切だと感じた。

・普段の職員会議とは違って、テーマに正解がなかったため誰でも発言しやすいように感じた。

・みんなが考えを受け入れてくれるので、嬉しい気持ちになった。

・子どもの気持ちを知ることができた。

（緊張、聞いてもらえて嬉しい、他の人の考えを聞いた、他の人の考えを聞いて思いついたなど）

・現実的ではないテーマだったため発言しやすかった。正解がないからこそ思ったままに発言できた。

・宇宙人というテーマが絶対ありえないことだったからこそ、あまり考え込みすぎず話すことができた。

・宇宙人のイラストをもとに話したことが面白かった。

・空想だが絵があることでイメージが膨らんで、盛り上がった。

・普段の職員会議よりも発言しやすかった。

・円になって話すため、顔を見て話したり聞いたりできた。誰が話しているかわかりやすかった。

・全員（11人）と少人数（5～6人）の2パターンを試した結果、少人数の方がやりやすかった。

・集まる人、タイプによって話の盛り上がり方が違うことに気付いた。

・同じテーマで「こどもかいぎ」をやってみたらどうなるか楽しみのになった。



「こどもかいぎ」のテーマ例（2023年度実施内容の一部）

もしも〇〇だったら（空想を楽しむ）	身近なギモン
・もしも魔法が使えたら？ ・もしも生まれ変わったら？ ・おばけっておならするのかな？ ・サンタさんって本当にいるのかな？ ・スーパーヒーローになったらどんな力を使いたい？ ・雨じゃないものが降ってくるなら何がいい？	・なぜ生まれてきたんだと思う？ ・どうしてけんかになるのかな？ ・雨が降るのはなぜ？ ・どうしてサンタさんは来るの？ ・何でうんちって言うと笑っちゃうの？
好きな〇〇教えて！（違いを楽しむ）	日常の気づき
・好きな遊びは？ ・好きなパンは？ ・好きなお菓子？ ・好きな食べ物、お店、もの ・パパとママの好きなところ	・今日楽しかったこと・嬉しかったこと ・どうやったら勝てる？ ・とりのフン対策 ・雪 ・好きなこと、苦手なこと ・朝起きて最初に考えることは？
きもち（感情に気づく）	イベント系（主体的に計画する）
・どんなときに嬉しい？ ・ママが嬉しいときってどんなとき？ ・言われたら嫌な言葉は？ ・嫌なことあったらどうする？ ・やめってって言えない人がいたらどうする？ ・どんなときに恥ずかしい？ ・友だちが恥ずかしがっているときどうする？ ・どんなときに悲しくなる？ ・悲しくなったらどうする？ ・どんなときに怖くなる？ ・お友だちが怖がっているときどうする？	・遠足の計画（どこで何しよう） ・運動会は何する？ ・学園祭何する？ ・畑で育てたい物 ・バルーンでしたい技 ・どんなクラブ活動をやりたいか

○アイスブレイク

リズムゲーム・伝言ゲーム・背中伝言ゲーム・しりとり・マジカルバナナ・フルーツバスケット・拍手リレー・3ヒントクイズ

○ファシリテーションのコツ・気を付けていること

- ・「何でも話して良い」、「何を話しても受け入れてもらえる」という安心感
- ・発言や気持ちをそのまま受け止める（相槌）、否定しない
- ・子どもの発言を繰り返す（オウム返しをする）ことで聞いてもらえた安心感や内容の理解が深まる
- ・自分の考えや意見を持っていいこと、その大切さを知ることから始めた
- ・自分の中にある色々な気持ちを知っていく
- ・聞いていることがわかるように少し大きな反応をする
- ・聞いているが話していない子⇒話を振ってみる
- ・話しやすい雰囲気（場）作りをする。アイスブレイクや教師の体験等から始める
- ・難しい言葉や分かりにくい表現は、言い換えてみる
- ・正解（答え）はない。話やテーマが変わってもOK
- ・答えや解決策を導き出そうとしなくて良い
- ・「ピースフルスクールプログラム」を併用する

子どものつぶやき

「サンタさんは魔法の鍵で入ってくるんだよ」

「怒ったとき壁と喧嘩する、壁が喧嘩しようって言ってくるんだよ」

「わたしは鏡の自分と喧嘩した！だって真似してくるんだもん」

「朝顔はどうして朝だけ咲くんだろう？」

「時計が中に入ってる」「目玉がある！」「あったかいのがわかる」「朝顔天才だな～」

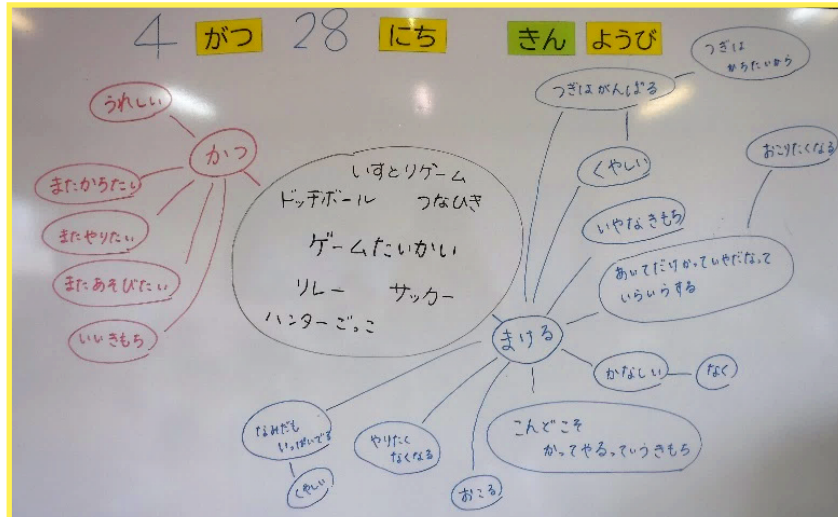
「軽いものは浮かぶよ」「でも赤ちゃんは浮かばないよ」「船は重いのに浮いてるよ」



4. 年長組「ゲーム大会」をめぐる長期の対話と気づきの進化

【1学期】

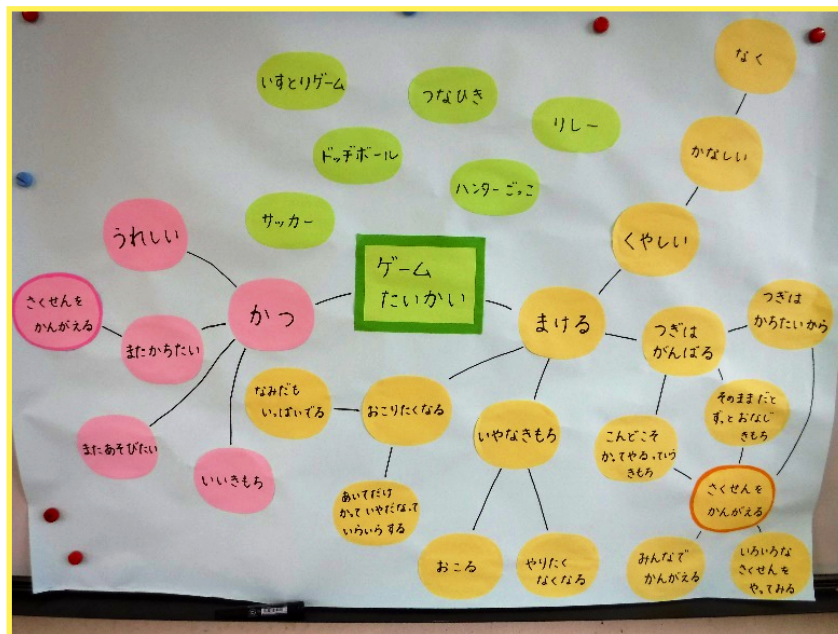
チームに分かれての勝ち負けがあるゲームをたくさんしてきた。負けると悔しくて、喜んでいる相手に怒りをぶつけてしまったり、気持ちが沈んだり、“もうやりたくない”という気持ちが膨らんだり……。そこで、勝った時と負けたときの心動きをみんなで出し合ってみた。



出てきたものを書きだしてみると・・・勝ったときより、負けたときの方が気持ちが多い。そして、

「負けるのは嫌だけど、次は勝ってやるっていう気持ちもあるから、悪いことじゃない」

「くやしくて怒りたくなるけど、少しすると次がんばるっていう気持ちになる」という発言が出てきた。



ホワイトボードに書いたものを残しておく、何日かして

「どうしたら勝てるか作戦を考えればいい」

「みんなで考えればいい」

「色々な作戦やってみればいい」

という考えが出てきた。



子どもたちが考えた「さくせん」

リレー

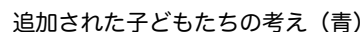
- ・速く走る気持ちで走る
- ・バトンをもらう時に手を伸ばしている
- ・走っている人に応援を届ける

つなひき

- ・両手で引っ張る
- ・わっしょい!!! (掛け声をかけて気持ちを合わせる)
- ・引っ張られそうになったら助けに行く



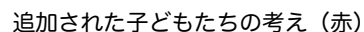
日々の遊びの中で様々なゲーム大会行っていると、子どもたちから「作戦会議しよう」という考えが多く出てくるようになる。負けたときに相手が喜んでいると、悔しい気持ちが大きくなって涙が出たり、イライラしたりして、相手チームにあたることもある。



- ・喜ぶけど一回にする
- ・くやしいけど、楽しい
- ・あ～って気持ちになるけど、楽しい
- ・涙は出なくなった
- ・そういう時もあるって思う
- ・次勝てるようにがんばる
- ・次は勝てるように新しい作戦



負けて悔しい気持ちがありながらも「次がんばろう」という気持ちへの切り替えが早くなる。
負けてもゲーム大会自体を楽しみ、内容に目を向ける姿も出てくる。
勝って喜んでいる人も認められるようになる。



- ・ アピールは1回にする
- ・ みんなで出して考える
- ・ 次はがんばる
- ・ 悔しいけど楽しかったからいい



年間を通して様々なゲーム大会を行いました。最初は子どもたちは結果だけに興味を持っていましたが、自分の感情に注目し、それを書き出したり掲示したりして可視化することで整理することができました。それにより、作戦を考えることや試行錯誤することの大切さ、次のステップに向かう意欲などが芽生えたように感じます。また、時折みんなで振り返り、話をする機会を設けることで、相手の気持ちも考えながら、みんなで楽しく気持ちよくあそべる方法を模索するようになりました。3学期には、勝ち負けに関わらず、「ああ～楽しかった!」と気持ち良く終わることが多くなりました。ゲーム大会を通して気持ちの受け止め方や整理の仕方、切り替え方、そして作戦の立て方など、様々な成長が感じられました。

5. 保護者の方が見た子どもたちの世界

1 日先生体験の感想

保護者の方が「先生」となって幼稚園生活を体験。保護者の方が「先生」としてわが子以外の大勢の子どもとふれあうことで、子どもたちの育ちを客観的に見たり集団の中での成長を実感したりなど、普段の保育参観とは違った視点を得ていただくことを目的とする機会です。「先生」として子どもと関わることで得られるのは「子どもの視点」です。子どもたちの素敵なところをたくさん見つけながら一緒に楽しくお過ごしいただいています。2023年度に体験された方のご感想を紹介します。

子どもたちの楽しそうな姿やお友だちとの関わりを見れてよかったです。成長の違いや関わり方の違いも見ることができ、先生方の子どもたちへの関わり方がとても参考になりました。子どもたち自身の考えや行動を先生がサポートしている様子が伝わり、子育ての勉強になりました。

普段子どもたちがどのように過ごしているか見ることができてよかったです。先生方が普段大変なお仕事をされていることがわかりました。英語や水遊びなど、子どもたちがとても楽しそうで、子どもたちがすごく人なつこく、とてもかわいかったです。

とても充実した1日を過ごすことができました（その分の疲労感も）。普段の子どもたちの様子が見れたり、幼稚園全体の雰囲気、先生たちの子どもへの関わり方を身近で見ることができてよかったです。よい経験となりました。

トラブルがあっても、自分たちで話したり、気付いたりする姿があり、子どもたちが前向きになろうとする姿ばかりで、大人が介入しなくてもここまでできるんだ、と気付かされました。先生たちの言葉がけやかかわりがあったかくて、いけないことも怒るようなこともなく、分かりやすく伝えていて「見てくれている」安心感のようなものがあるんだと感じました。

保育参観ではなく、幼稚園生活に参加することによって、他学年の子どもたち全体を客観的に見ることができ、一人一人やること、やり方が違うんだなあと、そしてどれも正しくて楽しかったです。先生が一人で子ども全体をきちんと見ていて、その観察力に驚きました。元気いっぱいの子どもたちと楽しい時間を過ごすことができてよかったです。

先生方の園児との関わり方を直接知る機会が少ない中、1日を通して近くで学ばせてもらえたので、声かけの仕方や気かけ方など、普段意識にくい子育ての目線で気づけたことがたくさんありました。消防体験でも目を輝かせていろいろなことを質問したり、話をちゃんと聞くことができたり、年長さんらしい成長はこういうことなのだと学ぶことができました。元気に身体を動かし、積極的に話しかけてくれる園児がたくさんいて、日頃のいきいきとした明るい幼稚園教育のたまものなのだと実感しました。体験させて頂きありがとうございました。

子どもたちがたくさん話しかけてくれて嬉しかったです！部屋に入るとすぐに「給食一緒に食べよう！」と皆が誘ってくれて困ってしまうほどでした。園の中で、担任の先生だけでなく、様々な先生がかかわる機会があり、お部屋で他の先生がダンス（の活動）をしている間、担任の先生が1人の子とじっくりかかわるという時間がもてるのも良いなと思いました。どこまで言葉がけすべきか悩む瞬間もありましたが、先生方の姿をたくさん見ながら、子どもたちに任せる時が多くて、家でももう少し子どもを信じて任せてみようかなと思えました。

先生方が子どもと関わる時に、子どもたち自身が気づいていける、意見が出てくる、という場面のやりとりや関わり方が見られたのがよかったです。1日通して、こうやって子どもたちと関わっているんだというのが分かりました。「子どもが主体」というのを体感できました。子どもたちが思うままに考え行動できるようにサポートしてくださる先生方に感謝です。

今日1日あっという間でした！とても勉強になりました！！「こうするとキレイになるね、気持ちが良いっていいね」という前向きな声で、それを聞いた子どもたちが自発的に行動できていて、こうやっていくと良いのか！と勉強になりました。だれかが困っていると自然と子どもたちから手を差し伸べ解決していく姿に頼もしさを感じました。

体験できてよかったです。子どもたちが人なつこく、とてもかわいかったです。一緒に遊んで私が癒されました。でも、これが毎日となると、とても大変だなあと思いました。先生方の1日の動きなどが見れたというのも安心する材料となりました。

園児同士でどんな話をしている、関わっているかを普段知ることがないので、学年ごとのコミュニケーションの仕方の違いなどがわかり、とても有意義な経験でした。園児ひとりひとり個性ゆたかで、話したいこと、考えていること、大切なことが違って当たり前なのだと再認識できました。

1 学年違うだけでもすごく子どもたちの様子が違い、成長もよくわかりました。いづみ幼稚園の子たちはみんな元気で人なつこくて、みんなかわいかったです。どの学年の子ども、自分の考えをしっかりとっていて、よく考えて行動していて、改めてびっくりしました。

Traces of Play アソビの軌跡

2023年11月28・29日 アートプロジェクト

ゆびえのぐ（赤・青・黄・白）、スポンジ、手足、和紙 アトリエリスタ：伊藤美輝先生



違いを認め合える環境だからこそ、さまざまな表現や個性が豊かに花開く

Everybody Smiles Everyday!

We value

Healthy, **A**ttachment, **P**layful, **P**ositive education and being **Y**ourself